

研究課題：対話型組織開発のその後に関する研究

研究課題/領域番号：22K13467

研究種目：若手研究

研究代表者：多湖 雅博 京都文教大学，総合社会学部，講師

(概要)

本研究の目的は、日本国内の職場を対象とした対話型組織開発の有効性の検証と、対話型組織開発の効果の継続時間と効果を継続させるための要因を探求することである。対話型組織開発の代表的なものとして Appreciative Inquiry (以下 AI と略す) がある。1980年代に開発された AI は世界中の企業で実践され、さまざまな効果があることが実証されている。近年は日本企業においても実践され始めており、その有効性が認知されつつある。しかしながら、AI の日本国内でのまだまだ研究は少ない。また、AI の効果は永遠に継続するものではない。どの程度の期間有効なのか、持続させる要因は何かなどの検証は、これからの課題であり、今後の研究蓄積が必要である。本研究では、AI の日本国内での研究蓄積と AI の効果の継続期間の検証および効果の継続のための要因を探求する。